

第11回丘珠空港機能強化検討会 議事概要

日 時：令和8年9月17日（木）10：00～11：00
場 所：TKPガーデンシティ札幌駅前 ホール3C
出席者：委員17名、札幌市（事務局）4名

【議事】

- ・ 会議冒頭、開会挨拶として、札幌市 稲垣都市計画担当局長より、各種機能強化の検討に対する関係機関への謝意と、引き続きの協力依頼が述べられた。

（1）時間軸・優先度で整理した課題・対応の方向性の検討・取組状況

- ・ 「今後の増便への対応」について、将来的な1日70便対応に向け、北東地区の幅70mの緑地・河川部分と隣接する幅55mの農用地（計125m幅）を防衛省が新たな空港用地として活用し、その北側幅65mの農地を札幌市が取得して、新たな丘珠空港緑地として整備する方針。これについて、令和8年9月11日の札幌市都市計画審議会へ諮問し、緑地の都市計画変更について同意を得たところで、今後、10月以降に変更に係る告示を行う予定。
- ・ 「航空機騒音調査方法の見直し検討」について、現在行っている夏期と冬期の年2回の短期測定（12地点）では、いずれの地点においても測定値が環境基準内であることを確認しているが、PIなどにおいても、長期間・詳細な調査や丁寧な説明を求める声も多く寄せられていることから、常時監視が可能な「通年測定」の段階的導入を検討。
- ・ 交通アクセスの実態調査については、本年2月に開催された本検討会において、「将来の空港利用者増を見据え、積雪寒冷地の都市型空港としてふさわしい公共交通の形を議論していくべき」との意見があったことを踏まえ、交通分担率議論に向けた機内アンケート・現地調査を実施し、今後、これらのデータをベースに、二次交通のあり方について議論を深めていきたい。
- ・ 「新ターミナルビルの基本計画」については、年間旅客100万人、1日70便を想定しているため、「コンパクト&スムーズ」をコンセプトに、現ターミナルビルをオフィス・貨物・ビジネス施設等に再構築し、新ターミナルビルに旅客機能を集約する考え。
- ・ 事業スケジュールは、2年程度の工事期間（令和8～9年度に基本計画、令和9～10年度に設計、令和11年度からの着工）を想定しており、想定事業費は約70億円を見込む。また、旅客施設取扱使用料（PSFC）の導入も検討している。
- ・ 滑走路延伸案の決定と環境アセスメントの手続き状況については、昨年度のPIおよび今年7月の「計画段階評価」を経て、滑走路300mの延伸は、「案1」の両端150mずつを延伸し、1,500mから1,800mに延長する形に決定し、「計画段階評価対応方針」として国土交通省航空局から7月31日に公表された。
- ・ 現在、環境アセスメントの「方法書」の公告・縦覧を行っており、9月7日～9日において9会場で住民説明会（オープンハウス型）を実施し、236名が参加した。
- ・ 今後は方法書の手続きなど、より詳細な検討が必要となるが、引き続きできるだけ早期の事業着手を目指して必要な手続きを進めてまいりたい。
- ・ 除雪機材の更新について、計画的に最新機材への更新を実施している状況であり、除雪体制の強化については、今後の滑走路延長・増便に向けて、引き続き国土交通省と防衛省で協力して進めてまいりたい。

（2）その他（意見等）

- ・ 騒音問題等も基本的な重要問題のため、引き続き議論を詰めながら検討を行うことと、将来の都市型空港としての方向性も合わせて検討しながら進めていただきたい。
- ・ 環境アセスメントを含め、地域住民へ説明する機会を増やす中で、やはり市民の期待の高まりも同時に上がっているが、一方で課題も見えてくるところもあるため、引き続き関係各機関と丘珠空港の活性化に向けて取り組んでいきたい。

以上